



国際物流総合展2018

2018年9月11日~14日
東京ビッグサイト

体験型展示で空港向けシステムを紹介

当社は2018年9月に東京ビッグサイトで開催された、アジア最大級の物流・ロジスティクスの総合展示会に出展しました。13回目の出展となる今回は、最新のセルフ手荷物チェックインシステム「セルフバッグドロップ」を展示。また、4Dシアターを設置して“手荷物”の視点で空港内の搬送システムを体感いただきました。

世界の航空旅客数が急増している中で、チェックインの待ち時間短縮、人手不足への対応、大量の手荷物の迅速かつ正確な搬送・仕分けなどのニーズが高まっており、それらを実現する最新の空港向けシステムの一部を、大勢の来場者に紹介しました。



ダイフクブースで行われたプレゼンテーションの様子。映像紹介のほか、来場者自らが手荷物預け入れを体験できるデモンストレーションなどを実施した。



セルフ手荷物チェックインシステムでは、パスポート写真との照合を行う「顔認証」を疑似体験(上)。手荷物に専用のタグを取り付けてコンベヤに載せるだけで預け入れが完了する(左)。



“手荷物”の視点で空港内の搬送システムを体感できる4Dシアター。チェックインカウンターで預けられた手荷物が航空機に積み込まれるまでの過程を、映像と連動して動くシートに座って体験。